



世界にひとつの門松！新年の始まりを華やかに彩りました。

はやくこいこい、お正月♪

お正月飾り「ミニ門松を作ろう」

12月21日(水)、押野児童館でミニ門松作りが催され、小学生19人が参加しました。用意されたのは、手持ちサイズの小さな竹、マツなどの植物、折り紙で作ったツルや扇子など。子どもたちは思い思いに好きなものを選び、お正月らしい飾りつけに挑戦しました。

「先生、ちょうちょ結びがうまくできない！」などと悪戦苦闘する子の姿も見られましたが、最後にはみんな素敵な作品を完成させ、嬉しそうに「できたよ！」と見せてくれました。

献血は愛のアクション

移動採血車による献血推進活動

1月5日(木)、採血バスが市役所を訪れ、来庁者や職員など計66人が献血を行いました。日本では1日平均3千人が輸血を受け、年間1,900万本の血液製剤が供給されます。赤十字血液センターは「血液には有効期限がありこれで十分ということがありません。特に夏場と冬場は献血者が減り血液が不足します。40分で救える命があります」と献血を呼びかけました。献血者からは「毎回参加しています」「ぜひ100回を目指したいです」など頼もしい声が聞かれました。



献血であなたも誰かのヒーローになれる！



22人の会員は、栗市長の話に真剣に聞き入っていました。

まちの未来をともに考える

新春 市長と語ろう

住みよいまちづくりを目指して市女性協議会と栗市長との意見交換会が1月16日(月)、文化会館フォルテにて開催されました。この事業は女性の市政参加・協力意識向上を目的に実施され、毎年恒例となっています。

「市民に向けて椿サミットの概要や目玉を伝えてほしい」との意見に対し、栗市長は「野々市中央公園での椿山・椿館整備や里まちガイドが案内する市内視察、野々市ならではのツバキ活用など見どころがいっぱいです。ぜひ会場へ足を運んでください」と答えました。

創立30周年 記念のつどい 市文化協会

文化会館フォルテにて1月11日(水)、市文化協会創立30周年記念パーティーが開催されました。絵画や盆栽、俳句、短歌、花のアレンジメントなど、各団体の作品の数々が並び会場に約110人の参加者が集い、華やいだ雰囲気。式典では、30年間で協会に特に貢献した12人1団体へ感謝状が贈呈されました。また能楽愛好会による仕舞や、市民合唱団の歌声も披露され、会場全員で大合唱になる場面も。協会は今後も、さらなる飛躍と次世代の担い手の育成を目指していきます。



感謝状受賞者の皆さん

FOCUS

まちの話題
皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
秘書広報課 ☎227-6056

ツバキ鑑賞施設の名称は『のいち椿館』に決定！

野々市中央公園整備

第27回全国椿サミット野々市大会の開催に向け、野々市中央公園にて建設を進めてきたツバキ鑑賞施設。このたび市内椿関係3団体参加のもと名称検討会議が開かれ、その結果「愛と和花のギャラリー のいち椿館」と名付けられました。名前には訪れる人に分かりやすく、また愛されるようにとの願いが込められています。

『のいち椿館』は、市民や来園者が市花木ツバキに親しむための憩いの場。椿サミット初日の3月18日(土)から一般開放されます。ぜひ足を運び、野々市の春を感じてください。



1.『のいち椿館』の外観 2. 入り口に名称看板が設置されました 3. 内観(全景) 4. 一本の木からさまざまな色の花が咲く「尾張五色椿」 5. ツバキに関する説明が書かれた看板 6. 約300品種・600本から厳選されたツバキを見ることが出来ます



オーストラリアのコーナーで「Fairy Bread(妖精のパン)」作り

親子で楽しむ♪世界のクリスマス 国際交流サロン

富奥防災コミュニティセンターで12月18日(日)、親子で楽しく世界のクリスマスについて学ぶためのイベントを開催しました。6カ国の外国人が講師を務め、伝統的なゲームやトナカイのペーパークラフト作り、フルーツカービングなどを用意。「オーストラリアのクリスマスは夏なんですよ」「サンタさんのトナカイには名前がついているって知ってる？」など、母国のクリスマス文化について紹介しました。参加者らは子どもから大人まで興味津々で、積極的に交流していました。

つながる優しさ

歳末たすけあい慰問

市社会福祉協議会は12月22日(木)から年末にかけて歳末たすけあい慰問を行いました。この活動は、市内の長期病院入院者や施設入所者、在宅介護の高齢者など支援を必要としている人に、温かく新年を迎えられるよう慰問金などを贈るものです。民生委員・児童委員らは市内と周辺の施設や病院を訪問し、市内54町内会から寄せられた募金の中から慰問金442万円を届けました。特別養護老人ホーム富樫苑では「お元気でいてくださいね」と声をかけながら一人ひとりに手渡しました。



対象者は長期病院入院者、施設入所者など約1,440人